

## 令和7年度 学校総合評価

### 6 今年度の重点目標に対する総合評価

学校の現状と課題から次の2点を重点課題とした。

- (1) 主体的・対話的で深い学びの視点での作業学習における授業改善<学習活動>
- (2) 基本的生活習慣の定着と健康に対する自己管理能力の向上<学校生活>

<学習活動>

- ・各作業班において、授業改善についての検討会を4回実施した。また、改善した取組を「主体的・対話的で深い学び」の視点で授業改善シートにまとめ、各作業班2枚以上作成したため、A評価とした。

<学校生活>

- ・健康チェックシートを年3回実施し、基本的生活習慣が身に付いたと80.3%の生徒が回答した。また、保健だより等による情報発信や保護者との合同懇談会(PTAと生徒による合同懇談会)を計画どおりに実施し、効果的であったと考えられるため、A評価とした。

学校評議員会では、学校運営やアクションプランの取り組み状況について、専門的な立場からのご意見や感想をいただくとともに、今後に向けての建設的な方策について助言をいただいた。

### 7 次年度へ向けての課題と方策

本校では、「卒業後の就職を目指す意欲の高い生徒の確保」、「卒業予定者全員の一般企業等への就職と職場定着」を重要な役割として捉えている。そのために、健康管理、日常生活管理、対人スキルや基本的生活習慣といった、継続して働くための土台となる部分を身に付けるための取組をさらに進めるとともに、自らの課題を見つけ、主体的に解決しようとする態度を様々な機会を捉えて育成していくことを教職員で共通理解を図り、保護者とも連携を取りながら、学校教育活動全体で推進していきたい。

<学習活動の取組>

- ・互見授業は互いのよい点を学び、授業改善につなげる有効な取組である。しかし、学校行事等が多く、その中で互見授業の期間を設定し、実施することが難しかったため、2学期末に実施することになった。しかし、互見授業で得たことを改善に生かすためにはもっと早期に行う必要がある。もっと気軽に授業を見学し合い、意見交換できる雰囲気高めるとともに、新任教員に対しては年度当初の新任者研修の中で授業見学の機会を設定したい。また、次年度は教科間で年間指導計画を検討する場を設け、教科等横断的な視点で学習内容や時期を整理し、より効果的な授業改善を図っていきたい。

<学校生活の取組>

- ・基本的生活習慣の定着と健康に対する自己管理能力の向上は、卒業後生徒が安定して働き、充実した生活を送るために必須である。学校評議員会でも、欠勤しないためにモチベーションをいかに保つかということが話題になった。学校での取組により、生徒の生活習慣や体調管理についての意識の高まりは見られたが、日々の実践につなげたり、ストレスに適切に対処したりすることについてはまだ支援が必要である。生徒が自分事として実践できるように、生活の中から自分自身で健康課題を見つけて自己チェックしたり、ICT機器を活用して自己管理する習慣を身に付けたりできるように工夫していきたい。また、家庭と連携できる機会や方法について再考しながら取組を推進していきたい。

## 8 学校アクションプラン

令和7年度 富山県立富山高等支援学校アクションプラン — 1 —	
重点項目	学習活動
重点課題	主体的・対話的で深い学びの視点での作業学習における授業改善
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習指導要領には、求められる資質・能力の育成を目指して「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を進めることが示されている。本校ではこれまで、各教科等においてICT機器を活用して生徒が主体となって学ぶ授業の在り方について研修し、改善を行ってきた。しかし、教師主導により授業が展開される場面が多いことや、自己の考えを形成するための対話の場面設定が不十分である等、今後も改善を進めていく必要がある。</li> <li>・作業学習では、学習計画（運営や学習指導・支援、引継ぎ等）や教員の専門性の関係で、授業担当者は固定されることが多い。そのため、他の作業班の授業の様子を見る機会が少なく、所属以外の作業班での学習の進め方や工夫点について知らない教職員も少なくない。生徒の作業面での実態や、どの班にも共通する態度面等の事項がどのように指導されているかを把握する上で、所属以外の作業班についても知っている必要がある。</li> <li>・作業学習で取り扱う学習内容や、アビリンピックの各競技に関する技能について、作業学習の授業担当者に求められる専門性が高い。教職員自身が外部の専門家から学び、専門性を身に付けることで、より効果的に授業を展開できると考える。</li> </ul>
達成目標	各作業班における授業改善 <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業改善についての検討会の実施 各作業班 年4回以上</li> <li>・授業改善シートの作成 各作業班 年2枚以上</li> </ul>
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作業学習の互見授業を実施し、所属以外の作業班での学習の進め方や工夫点を知る。</li> <li>・互見授業等で学んだことを各班で共有し、それを活かして各作業班で検討し、授業改善を行う。</li> <li>・専門家による「プロフェッショナル講座」を計画的に実施し、教員自身も研鑽することで作業学習における指導力をより高め、学んだことを参考にして授業改善を行う。</li> <li>・作業学習においても主体的に取り組めるよう、生徒が「目指せ！ワンダフル☆School」プロジェクトを推進できるよう、振り返り等から生徒の気付きを引き出すように工夫する。</li> </ul>
達成度	各作業班における授業改善 <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業改善についての検討会の実施 各作業班（年4回）</li> <li>・授業改善シートの作成 木材加工班（3枚）、食品加工班（3枚）、流通班（2枚）、環境班（3枚）、福祉班（4枚）</li> </ul>
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内研修において、作業学習における授業改善の目的や方策について共通理解を図った。</li> <li>・各作業班において年4回検討会を実施し、課題や授業改善について情報共有を図った。検討会は会議後等を実施したため、十分な時間の確保が難しかった。</li> <li>・12月に互見授業を実施した。他班での学習の進め方や工夫点について知る機会となり、自班の授業改善に活かすことができた。</li> <li>・各作業班において「プロフェッショナル講座」を実施した。専門家から作業内容やアビリンピックの各競技に関する技能や専門的な視点について深く学ぶことができ、指導力向上につながった。</li> <li>・「目指せ！ワンダフル☆School プロジェクト」では、各作業班の特性や課題に合わせてテーマを設定し、生徒は達成を目指して主体的に取り組んだことで、環境改善や作業効率の向上につながった。</li> <li>・全体報告会にて、各作業班の授業改善について授業改善シートを用いて共通理解を図った。他班の取組を知ることで、今後の自班での継続的な授業改善に役立つ情報を共有できた。</li> </ul>
評 価	A 各作業班において、授業改善についての検討会を4回実施した。また、改善した取組を「主体的・対話的で深い学び」の視点で授業改善シートにまとめ、各作業班2枚以上作成したため、評価をAとした。 今後も、作業班での話し合いを通して現状把握や課題設定をし、改善に向けた取組を継続することが必要である。
学校評議員の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各作業班において、様々な授業改善の取組があり、とても良かった。特に、生徒が主体的に学習に取り組んでいる様子がとても良く分かった。今後、安全指導（ヒヤリハット）や5Sなどの他班の取組を知ることで、更に授業改善が期待できると思う。また、PDCAサイクルを意識して、改善後にはその効果を検証するサイクルも大切にしてほしい。</li> </ul>
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・検討会については、必要な情報共有や授業改善をするために必要なことだと思う。教員の多忙さを考えると時間の設定が難しいと思うが、短時間でも深まりのある話し合いになるように今後も継続して実施することが望ましい。</li> </ul>

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）

重点項目	学校生活	
重点課題	基本的生活習慣の定着と健康に対する自己管理能力の向上	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康に対する自己管理が不十分で、体調の変化に気付いても適切な対応ができず、体調を崩す生徒が多い。また、食事の内容や運動不足への意識も低く、健康的な生活を意識して行動に移すことがなかなかできていない。</li> <li>人間関係の悩みや SNS 上でのトラブルに心を悩ませる生徒も見られ、精神的なストレスが生活や体調に影響を与えるケースも少なくない。</li> <li>将来、社会的・職業的に自立していくため、自分の心と体の状態に目を向け、必要に応じて周囲に相談したり、自分なりの対処法を身に付けたりすること、日々の生活を見直し安定した生活習慣と健康を維持する力、そして心身をバランスよく保つ自己管理能力を身に付けていくことが大切と考える。</li> <li>健康的な生活習慣を身に付けるには、生活の基盤である家庭の理解や協力が必要である。サポートが不足していると、生活リズムや健康管理に影響が出るため、学校と家庭が連携して同じ方向に向かって支援することで一人一人の意識がより深まり、基本的生活習慣の定着・改善につながっていくと考えられる。</li> </ul>	
達成目標	① 健康チェックシートを活用した健康課題の 気付きと生活習慣の改善	② 家庭と連携した生活習慣の改善
	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康チェックシートの実施 年3回</li> <li>年度末自己評価アンケート結果より基本的生活習慣が身に付いたと回答した生徒の割合 70%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保健だより等で定期的な発信、アンケートの実施 年2回</li> <li>保護者との合同懇談会の実施 年2回</li> </ul>
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>「健康チェックシート」を実施し、生徒個人及び本校の健康課題を把握する。</li> <li>保健指導、自己チェック週間を通年で実施し、基本的生活習慣の定着を図る。</li> <li>健康課題に応じ外部講師を活用する。</li> <li>家庭との連携を深めるため、定期的に健康や生活習慣に関する情報を保護者と共有し、保護者との合同懇談会を実施して、個別の状況に応じた支援方法を話し合う場を設ける。</li> </ul>	
達 成 度	①健康チェックシート：年3回、基本的生活習慣が身に付いたと回答した生徒：80.3% ②保健だより等による情報発信：年9回、保護者アンケート：年1回 ②保護者との合同懇談会(PTA と生徒による合同懇談会)：年2回	
具体的な 取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒を対象に「健康チェックシート」を年3回実施し、生活習慣や体調管理について振り返る機会を設けるとともに、集計結果を基に保健指導や言葉掛けを行い、生徒一人一人が自身の健康課題に気付くよう支援した。</li> <li>保健指導や自己チェック週間を通年で実施し、睡眠・食事・運動等の基本的生活習慣について継続的に指導するとともに、必要に応じて個別対応を行うことにより、生活リズムや体調管理への意識向上を図った。</li> <li>保健だより等を活用して、生活習慣や心身の健康に関する情報を家庭へ定期的に発信した。また、メンタルヘルスに関するアンケートを通して家庭での様子や困り感を把握した。</li> <li>保護者との合同懇談会を年2回実施し、生徒のメンタルヘルスに関する課題や日常の様子について情報共有と意見交換を行った。これにより家庭と学校の共通理解が図られ、連携が深まった。</li> <li>懇談会やアンケート結果を踏まえ、外部講師によるメンタルヘルス研修会を実施し、ストレスへの気付きや適切な対処法について学ぶ機会とした。研修後のアンケートから心の健康に対する意識の高まりがうかがえ、自己管理能力の育成につながる取組となった。</li> </ul>	
評 価	A 健康チェックシートの実施により、生徒が自分の生活習慣や体調の変化に目を向ける機会を継続的に設けることができ、年度末の自己評価アンケートから健康に対する意識の向上がうかがえた。また、合同懇談会やメンタルヘルス研修会を通して、生徒が心身の状態やストレスに気付き、対処法を考える機会を設けるとともに、家庭と連携した支援を進めることができた。一方で、生活習慣や体調管理については、意識の高まりは見られるものの、睡眠や食事、運動等を日常的な行動として定着させることに課題が残った。また、メンタル面ではストレスへの気付きは進んだが、自ら対処法を実践したり周囲に相談したりする自己管理能力の育成にはさらなる支援が必要である。今後は、家庭と連携しながら具体的な目標設定や振り返り、困ったときに周囲に助けを求める行動を促す取組を継続していく必要がある。	
学校評議員 の 意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康管理の取組は大変充実しており、他校や保護者にも広く周知することで、取組の一層の充実につながるのではないかと。</li> <li>3年間で社会へ出ることを見据え、「連携」に加えて「移行」の視点を取り入れることで、卒業後の生活をより具体的に意識した取組になると思われる。</li> </ul>	
次年度へ 向けての 課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康に対する意識を行動の定着につなげるため、具体的な目標設定と振り返りを継続して行い、生活習慣の改善と自己管理能力の育成を図る。</li> <li>ストレスへの対処や援助要請行動が実践できるよう、家庭と連携しながら心身の健康を継続的に支える取組を充実させる。</li> </ul>	

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)